

特別寄稿

これからの看護教育の課題

尾原喜美子

(近森病院附属看護学校)

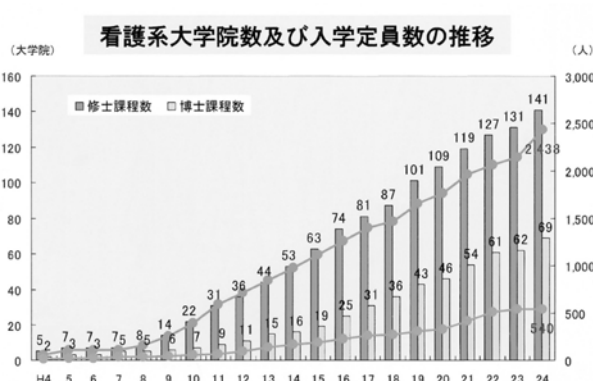
1. 看護学教育の現状認識

学士課程における看護系人材育成の目標は、看護専門職としての能力開発に努めることです。人々の生活するあらゆる場で種々のニーズに対応し、保健、医療、福祉などに貢献できる応用力と国際性豊かな人材育成を目指しています。看護専門職になるため必要な基礎的知識や実践能力を教授することで、必要な幅広い知識と社会や環境との関係、創造的思考力などを前提として、更に医療の高度化や看護の多様性に対応していくための教育を実施し、能動的な人材育成を目的としています。

昭和27年に高知県立女子大学で開始された看護師の大学教育は、平成4年に「看護師等の人材確保の促進に関する法律」が制定されたのを契機に1990年に入り加速度的に増加してきました。時代や社会の変化に伴い急速に進んできたといえます。2013年（平成25年）4月現在では、218校、1学年定員17,878人となり、看護系大学院も大学の増加に伴い上

昇の一途をたどり、平成26年度修士課程152校、博士課程75校となっています。資質の高い看護専門職の育成のためには、看護教育内容の充実と看護教育者の確保が重要といえます。そのため、質の高い看護教員の確保と今後の看護学発展に重要な役割を持つ研究者の養成を図る大学院教育が重要となります。

大学化が急激に進むことが、看護職あるいは看護を受ける人々にとって果たして好ましいことでしょうか。大学卒の看護師が社会に出るとしても、大学卒の看護師数は看護師全体の1/3に留まり、2/3は専修学校や専門学校の卒業生です。日本の看護基礎教育制度は非常に複雑・多様で、どのような背景や教育を受けたかによって異なり看護師国家試験に合格したからといって同一の資質を持つ看護師とはかぎりません。学士課程の看護専門職の教育は、単に看護実践力を高めるだけでなく、人々により高い質の看護を提供できる人材育成を目指していることもあり、今後更に教育拡大に向かっていただきたいと思えます。



資料：文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告書」より

そのためには、現在の教育制度を統合し「看護師」という一本の線上にある資格を得るために、一定水準の教育の質を担保することが重要です。専門看護師や認定看護師、特定看護師等看護の専門分化・スペシャリスト化が進行して、大学、大学院教育が一般的になっているとはいえ、准看護師養成が行われている日本の現状からみても看護教育には非常に大きな課題が残されているといえます。

## 2. 看護教員としてのキャリア発達

### 1) 教員に求められる力

看護系大学設立ラッシュに伴い、学士課程の看護基礎教育のあるべき姿に一定の方向性を示すことが求められました。看護教育内容は、平成23年に「大学における人材養成の在り方に関する検討会最終報告」<sup>1)</sup>で、今後の大学における看護系人材養成の基本方針が示されました。学士課程における看護師輩出の理由は、「大学は学術の中心として深く真理を追求し専門の学芸を教授研究する目的を持ち、これを担保するために教員の資格、教員組織、施設設備、研究環境、授業改善のための組織的な研修及び研究等につき、設置基準が課せられている。教員については学術研究上の業績を重ねること、その成果に裏付けられた質の高い教育を実践することの両面が求められている」と大学における質の高い看護師輩出の必要性を述べています。看護教育内容は、看護実践能力として5つの能力と20の看護実践能力を抽出し、卒業時の到達目標を示し看護実践能力促進を図ろうとしています。

高知大学医学部看護学科でも、教員によるいくつかのワーキンググループをつくり卒業時の到達目標・技術の到達度を抽出し継続的に学生の達成度調査が行われています。卒業時到達レベルに達するよう教員一同、臨床と連携しながら調査したことを覚えていま

す。

教育内容を高めるもう一つの重要な取り組みは、専任教員組織の編成だといえます。看護系大学院における人材養成目的は、大学院設置基準第3条によれば修士課程は、「広い視野にたつて精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度な専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする」とあります。また、大学基準協会による「21世紀の看護学教育」<sup>2)</sup>によると、大学院では、「看護実践の諸活動の質の向上に貢献できる教育者の育成という基本的使命ともつ」と述べています。教員の責務と資格については、「教員は、教育と研究の両面を行い、看護実践とその研究活動を基盤にした水準の高い教育に努めなければならない。教員は、教授・指導能力に加え、看護学の教育及び研究の両面にわたる業績と、看護実践経験、学会や社会における活動が充分考慮される必要がある。看護学実習を担当する教員は、大学の教員としての能力を持ち、その責任を果たすとともに、学生指導に際しては専門職業人としてのロールモデルとなり得る看護実践能力が必要である」と説明しています。

看護系大学院は、看護系大学が急増する中で、看護学教育の質を担保するために教育・研究能力、高い看護実践力を持った看護系大学教員を養成するという使命があつて増加していったのです。看護系大学はどここの大学とも教員を探すことに専念しなければ成らないほど教員不足は切迫した問題でした。看護系大学の集りに参加すると話題は、「教員が足りない、誰かいませんか」とか「教員不足は教育に影響を与える」などに終始していました。私も在職中、常に念頭にあつたことは、優秀な看護教員に高知大学に赴任していただくことでした。地方の大学に赴任して下さる教員は、よっぽどのご縁がない限り難しく、

「教授の重要な任務は人探し」といわれたものです。

現在、高知大学医学部看護学科教員の半数以上は高知大学大学院の修了生であると思います。高知大学大学院看護学専攻における教育が実を結んだ結果だと大変うれしく思います。



## 2) 教員のFD (Faculty Development)

教員は、社会に貢献できる看護専門職育成の大きな担い手です。教員になる前、また教員になってからも、常に教員・人としての資質向上に努めていかなければなりません。1999年の大学・短期大学設置基準の改正において「教員としてよりよくなることを助ける教育」、すなわちFD (Faculty Development) の必要性が提唱され、わが国の大学ではどこも計画的に行われるようになりました。杉森みどり等<sup>3)</sup>は、看護学教員が知覚する教員のロールモデル行動とその特徴を明らかにして、教員が教員として果たすべき役割を示しています（表1参照）。また、日本看護系大学協議会は「教育体制充実のための看護系大学院における教育者養成に関する調査研究」<sup>4)</sup>で、看護教員（助教・講師）に求めら

れる能力として、①看護学教育者としての資質（対人関係能力、職業倫理）、②実習施設との関係調整能力、③臨床実習における学習支援力、④教育全般を見渡す力、⑤教育・実践・研究の連関へ学研的に参与する力（看護実践力、研究能力、自己啓発・自己教育力、情報処理能力）の5カテゴリー、40項目をあげています。この内容は、平成24年度文部科学省の委託事業から抽出された内容です。看護系大学協議会に出席しこの教員の能力一覧を手にした私は、その年の高知大学医学部看護学科の教員会議で看護学科の先生方の参考にさせていただくために、お渡したことを覚えています。また、網野寛子等<sup>5)</sup>は、専任教員に求められる能力を具体的に示し、「看護実践能力」「教育実践能力」「コミュニケーション能力」「マネジメント能力」「研究能力」であると説明しています。

大学や学校の基盤となる力は教員の基礎的能力であり、教員の質が大学や学校を支えるとともに変革の力となります。大学の教員は、教育・実践・研究・社会活動といった責務・役割が課せられ、毎日多忙で研究に没頭できないと嘆く先生方に出会います。ノルマに追われ朝から晩まで頑張る先生方に本当に頭の下がる思いとともに、粉骨砕身し、頑張る先

表1 ロールモデル行動に共通する特徴

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習環境を整え、質の高い教授活動を展開し、授業の目的・目標の達成を目指す</li> <li>2. 看護学とその教育の独自性を反映した研究活動を行い、教育実践の質向上、研究の発展、産出した成果の社会への還元を目指す</li> <li>3. 看護学教育組織構成員として自覚を持ち、その運営に携わりながら、教育・研究環境の整備、組織の維持発展を目指す</li> <li>4. 主体的な学習環境を継続し、看護専門職者として専門性を高める</li> <li>5. 自己の信念・価値観に基づき自律した職業活動を展開する</li> <li>6. 相互に矛盾対立する役割期待を適切に処理し、意欲的に複数の役割を果たす</li> <li>7. 卓越した問題解決能力を基盤とし、計画的・効率的に仕事を遂行する</li> <li>8. 豊かな教養を基盤とする成熟した社会性を発揮し、他者との円満な関係性を築き保持する</li> </ol> |
|--|

生方がいらっしゃるから、学生は生き活きと学ぶことができ社会に貢献できる人材に育っていくのだと感謝しています。

一方で、最近の学生の「やる気」に変化が見られるといわれます。速水<sup>6)</sup>は、著書「他人を見下す若者たち」で、新しい時代の変化の影響をもっとも敏感に受けるのは若者たちだ、と述べ、日本人の間で感情ややる気の質も量も時代と共に微妙に変化してきているのではないかと説明しています。現代若者の特徴や社会人入学者の増加など、大学教育を取り巻く教育環境も大きく変化してきています。学生個々の特徴や能力に合わせた細やかな指導を求められることも多くなってきました。大学教員として従来の業務以上の学生指導で困惑が生じたり、能動的な学生の育成に四苦八苦しているかもしれません。看護学教育は、人のケア (care) という極めて繊細、且つ生命倫理的な活動であり、学生の個性を踏まえた能力向上が重要です。学習内容・学習方法については画一的でなく学生の主体性を重んじた学習方法を開発し自己学習が確立する教育環境整備などに努めなければならないと考えます。

看護学の履修科目は、約半分を臨地実習が占め、教員は、学生が飛躍的に成長する臨地実習を重要視し、臨地実習では必ず学生に同行し学生と共にケアにあたります。地方の国立大学看護学科の教員は、他の大学等と比べて非常に少ない教員数で授業を行い、講義や実習指導で大変な状態です。大学教員としてキャリア発達は重要ですが、教員が疲弊したのでは本末転倒です。臨床指導者の導入や実習病院との連携、学生参加型の授業作り等学生自らが主体的に学び能動的な学習が取れる方法の改善等、今後検討すべき課題が盛りだくさんといえます。

### 3. 時代を反映する若者の特徴

最近の看護学生は、前章で述べましたが、確かに「やる気」が低くコミュニケーションが下手で話のできない学生など独特の個性を持つ学生もいますが、元気で活発に誰とでも友達になれる学生もいるし、何にもましてパソコンに強いという現代っ子の特徴を持っています。若いから体力もあるし一旦こうだと決めると潜在するエネルギーが燃え猛烈に頑張ることができます。物怖じせず果敢に立ち向かおうとする勇敢な学生の姿を見たこともあります。個別性は大きい看護学生は成長・発達の大きな可能性を秘めているといえます。

先日、看護学生に体育を教えている先生とお話をする機会がありました。先生は、「今の学生は、無駄口が多い、だらだらして機敏さが無い、動かない、叱ってもケロッとしている、個人差が大きい」などの授業態度の悪さを嘆いていました。自分の教え方が悪いから学生がこうなるのでしょうか、とご自分の指導方法を振り返りどうすれば能動的な授業態度になるのか考えている、とおっしゃっていました。一方、通りすがり出会った学生が、普段はおとなしい学生ですが遠くから手を上げ「せんせい、こんにちは」と親しく声をかけてきたそうです。

授業では、消極的・受動的で評価に結びつく課題だけが行うが、それ以上は動かない、自分の趣味や好きなことには熱中し何時間でも頑張ることができるなどの特徴は、片田<sup>7)</sup>の著書「一億総ガキ社会『成熟拒否』という病」にてくる現代の若者たちの「打たれ弱さ、他責的、依存症」という特徴からも想像が付きまします。この3つの「打たれ弱さ、他責的、依存症」の根源は同じ病理であり、自己愛的イメージと現実の自分とのギャップを受け入れられないところから生じ、また、「何でもできる」という幻想的な万能観を捨てきれな



いたためであると説明しています。いつの時代も若者にむかって「今の若い者は・・・」というように若者を表します。時代の変化の影響を多少は受けたとしても、青年期の若者がそう簡単に変化することはありません。青年期は自己の発達課題を一つ一つ達成しながら大きく成長していく段階です。急に賢い大人になるのではなく、ゆっくりと多くの事に挑戦し冒険を繰り返す中でしなやかに成長していくでしょう。

教育とは一つの方向を見せることではありません。教育とは人間として育ち生きていくうえでの「素質や能力」を育て「知識や技能」を教え徐々に変化することです。看護学を修める学生には、自己の専門領域にふさわしいアイデンティティの確立を目標に進み、教員は、看護職として成長していく学生を陰でしっかりと支えゆっくりと見守ることが大きな役割かもしれません。

#### 4. これからの看護基礎教育の課題

現在、看護学教育は、学部教育はもとより大学院教育も大きな転換期を迎えています。

各大学には、将来を見据えて次世代の看護実践者ならびに看護学研究者を育成していくことが求められています。さらに、看護教員一人ひとりが、看護学に立脚した教育の原点に立ち戻り、看護学としての自律性そして独自性を貫く教育の枠組みを構築していく必要があります。今年4月高知大学では国立大学では全国初の地域協働学部をスタートさせ、学生の活動も活発に行われているようです。高知大学医学部看護学科、看護学専攻も今後益々大きく発展してくださることを願っています。高知県のもつ保健・医療・福祉に関する大きな課題への取り組みを真正面から受け入れ、高知大学医学部看護学科を地域になくてはならない存在とするため何ができるか、存在価値は何か等、看護学科の「強み」を分

析・検討し戦略を練っていただきたいと思えます。地域の看護職へ生涯学習の機会を提供する役割もあるでしょう。看護学科として持てる力を最大限に発揮し社会貢献の輪を広げていってください。高知県では看護師や保健師、助産師がまだまだ不足しています。卒業生の大多数が高知県に就職し活躍して下さることも存在価値を高める事になると思えます。

最後に、平成26年4月より看護学校での看護教育に携わっています。学士課程と専修学校課程では専門科目に大きな差はありませんが、基礎科目、専門基礎科目では単位数や教育内容が異なります。大学での教育経験を看護学校教育に活かして、看護学校でしかできない、看護学校だからできる教育や人間づくりに励みたいと思えます。

今回、高知大学看護学会誌委員長の栗原先生から、看護学会誌への執筆のお話しをいただきました。改めて振り返ることのできる機会をありがとうございました。高知大学医学部看護学科の更なる発展を願っています。



#### 【文 献】

- 1) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会：大学における人材養成の在り方に関する検討会最終報告. 2015. 文部科学省. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/40/](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/) (参照2015. 7. 24)
- 2) 財団法人 大学基準協会：21世紀の看護学教育. 大学基準協会資料第56号. 2002. [http://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/21\\_century\\_nurse.pdf#search](http://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/21_century_nurse.pdf#search) (参照2015. 7. 27)
- 3) 杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学

- 第 4 版増補版. 医学書院. 354-360. 2009.
- 4) 日本看護系大学協議会：日本看護系大学協議会：教育体制充実のための看護系大学院における教育者養成に関する調査研究報告書. 2013. <http://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2012/12/H24MEXT-project2.pdf> (参照2015. 8. 28)
- 5) 網野寛子・遠藤由美子・斎藤茂子 他：看護教員のための学校経営と管理. 医学書院. 84. 2012.
- 6) 速水敏彦：他人を見下す若者たち. 講談社現代新書. 4-5. 2006.
- 7) 片田珠美：一億総ガキ社会『成熟拒否』という病. 光文社新書. 5-8. 2010.